上げる。

メリル博士のは短報であつて，前にのべた加州大學の調査とは別個に，南京の中央大學がアーノルド樹木園後援の下に 1947 年の秋に調査隊を出したことを述べている。その結果入手した標本や種子は英米の主な研究機關に配布したという。植物學的な記述は少ない。化石屬が先に發見され，その後生存種が見出された他の例としてノブノキ *Platycarya* に對する London の clayflora でそれより前に見つかつていた *Petrophiloides*, 同じくクルミ科で 1941 年に雲南で發見された *Rhamphocarya* が，化石としては歐洲から既に知られていた *Caryojuglans* であつた事實につぐ第三番目の例だという。

胡先驌，鄭萬鈞兩博士のは本式な論文で新らしい四川湖北の材料で記載し，圖版をつけ，その上で新科を設立し，加えて化石種の一切をメタセコイアにうつした Chaney 氏の學名を發表したものである。記載をよみ，圖をみればみる程ラクウショウ(*Taxodium distichum*)に外觀の酷似したものであることがわかる。しかし枝と果とを通じて確に十字型葉序の展開であつてその點でラクウショウとは全く違う。ただし葉序の點も，圖では雄の毬花序の上半分になるとどうやら十字型がくづれて，次の螺旋狀排列が始つているのではないかと思はれる圖が描かれている。記載にはその事は書いてない。もしも正直なスケッチだとすればこの雄の毬花序は小さいからこの變化をしているのを見落したのかも知れないが，葉序を氣にしている私にとつては甚だ大きな期待でもある。いづれにしても標本が手に入らねばお話にならない。

新らしい科 Metasequoiaceae Hu et Cheng l.c.: 154 (1948)は主としてこの葉序の點を主眼として設立され，Taxodiaceae と Cupressaceae との中間に位置するという。生きていた化石は *Metasequoia glyptostroboides* Hu et Cheng といひ，その自生地は四川省萬縣磨刀溪 (Mo-tao-hsi) と湖北省利川郡水杉壩 (Shui-sa-pa-valley) とにまたがる 60 km² の海拔 1100ᵐ 前後の山地である。中國名を水杉，これは水松にも似ているところから付けた名であるらしい。Type tree は高さ 32ᵐ の大木である。

化石種としては *M. macrolepis* (Heer) Chaney 以下 7 種の新組合せがでている。グリーンランド，スピッツベルゲン，ネバダ等の下部白堊以降中新世迄の地層から出るが化石と生存種との全部を一括しても一種と見做したい程お互は近い連中であるようだ。

○ツマトリサウ（棲取草）の語源　（前川文夫）

この愛すべき山の草の語源については從來記るしたものがなかつた。最近武田久吉博士が「民俗と植物」(東京，三鷹町，山岡書店發行）という我々語源に興味を持つものにとつて珠玉篇ともいへるものを世に問はれたが，この中にはじめて語源を解明されている。即ち「その葉の緣が微かに紅色で彩られてゐる，即ち端（ツマ）取られてゐるからに外ならないのであらう」とある。デリケートな，しかし德川時代の本草家が却つて强

い印象を捉へたと思われるよい特徴が把握されている。たゞ私が氣になつたのは，緣（ヘリ）が色づくなら隈（クマ）であつて，褄（ツマ）というからには先端部の何か他の部分との不連續さから來ているのではないかと思うのと，これと平行したツマトリサウの葉の特徴が實は氣になつていたのである。大抵の植物の葉はどうも葉一面に大體一つ色調である。ところがツマトリサウではあの艶のない軟らかな綠の色が中央から柄に近い方は一様であるが葉の先に近づくにつれて，ぼかすかのように如何にも濃くなり，それも碧綠色に近い色になつて來てそれから先端に終るまで同一色を呈する。これは珍らしいことだが，實によい特徴だと思ひ，人にも話したことがあるが，これが葉全體からみれば深かみどりの褄取りに見えひいては語源ではないかと愚考するので，こゝにこの考へ方を述べて見たのである。

○植物分布資料　（故寺本一雄）*

Drymotaenium Miyoshianum Makino クラガリシダ　本種は本州中部，四國，臺灣，中南支那に分布する多肉質の長い線形の羊齒である。信濃下伊那郡大鹿村大河原（海拔約700米）で採集した（Jul. 21. 1947）

Diplazium nipponicum Tagawa オニヒカゲワラビ　シロヤマシダに似た大形の羊齒で從來，九州北部，四國，中國，近畿中南部，北陸，上總（三石山），羽後等に知られてゐる。伊豆湯ヶ島猫越川沿ひで採集した（Oct. 22. 1944）

Plagiogyria japonica Nakai キジノヲシダ　本州南部，四國，九州の特產の暖地性羊齒で三浦半島には少いが相模三浦富士山で採集した。

Rumohra aristata Ching var. *pseudo-aristata* H. Ito. コバノカナワラビ　本州南部から臺灣に分布する暖地性羊齒である。*R. aristata* ホソバカナワラビは相模にも多いが，本種は伊豆，房總には多いが相模にはあまり見掛けない。筆者の知る限りでは相模鎌倉比企ヶ谷に自生する。

Cymbidium nagifolium Masamune ナギラン　本種は本州南部，四國，九州，琉球，臺灣に分布する暖地性の種類で紀伊半島以東には少い。相模逗子の一部に自生してゐるし，鎌倉でも數年前採集された事があると聞く。

Microlepia pseudo-strigosa Makino フモトカグマ　フモトシダに非常によく似てゐて中間型で連絡してゐるともみられる二回羽狀複葉の羊齒である。*M. marginata* var. *bipinnata* クジヤクフモトシダとの區別に至つては實に微妙である。本種を安房天津で採集した。（Nov. 5. 1945）

---

* 寺本一雄君は昭和22年東京大學理學部植物學科に入學し，分類學を專攻する意途のもとに熱心な採集と研究とを行つていた前途有望な學生であつたが，惜しくも昭和23年9月　脚氣衝心で鎌倉の自宅で急逝した。この一文は同君の殘した唯一のものであるが。三浦半島の如きほとんど刈りつくしたかと思はれる場所でなお且つこのような記錄を殘したことは同君の採集の充實さを示すもので，それだけに同君の急逝は惜しい事であつた。

（前川文夫記す）